

The way forward

トップインタビュー

5月頃からインドネシアのルピア安が進み、当社も大きな影響を受けましたが、全体で見ると為替の影響は軽微といえるでしょう。また原材料価格が上昇してきており、売上は伸びるも、原価が収益を圧迫する状況が続いています。このような市況の中で、当社の第61期上期の業績は増収増益となりました。セグメント別に振り返ると、自動車生産が世界的に好調に推移していることを受け、特殊潤滑油事業は好調。少量塗布の新製品を投入したため、数量より利益を伸ばしました。ホットメルト事業も順調です。ルピア安によって利益が出にくい状況にはありますが、販売は好調に推移しています。また近年、HDDの需要が伸び悩み、合成潤滑油事業にブレーキがかかっていましたが、再び需要が高まってきています。素材事業については当社の提供する付加価値の高い流動パラフィンに対し、海外の安い製品が台頭。やや舵取りの難しい局面を迎えていますが原価低減などの策を講じています。

そして今後についてはやはり、グローバル展開と新製品開発が成長のカギ。中国と北米のグループ子会社が新規経営軸を生み出していけるよう、中国人を執行役員に抜擢するなど体制面からも変革を起こしています。また新製品開発においては、デバイス材料事業やメディカル材料プロジェクトなどを推進。一人ひとりが“遊び心”を持ちながら新しい価値を生み出していける企業でありたいと考えています。このような取り組みを通じて、より強い組織を目指していきます。

株式会社 MORESCO

代表取締役会長 CEO 赤田 民生

中国と北米の拠点に、
新たな経営軸を。





必ず達成するという 覚悟を持って、 全社一丸の挑戦を。

代表取締役社長 社長執行役員 COO

両角 元寿

第60期報告書において皆様にご報告致しましたが、MORESCOは今年5月より担当役員制度を導入し、経営体制を大幅に見直しました。経営陣の役割を明確にしたことで、意思決定のスピードは確実に早くなっており、変化の激しい時代の中で成長していくための1つの基盤を築くことができたと感じています。

そのような新体制で私たちが目指していくのは目下、中期経営計画に掲げた2018年度売上高300億円の達成です。最終年度の2020年度では売上高350億円、経常利益35億円を計画しており、これを実現するためにも、この300億円は絶対に達成しなければならないという強い意志を持って取り組んでまいります。また、この目標を達成していくために私たちは5つの中期経営方針を掲げました。1つ目は「高付加価値製品の追求」。MORESCOは研究開発型企業として、つねに私たちにしかできないソリューションを社会に提供し、それによって利益を確保していかなければなりません。幸いなことに近年は機能材事業部からの新製品が販売を伸ばしており、金属加工油事業部からも新製品を上市することができました。このような動きをさらに加速させていきます。2つ目は「M&Aや事業提携による新事業の創出」。私たちは自動車産業に深く関わっていますが、海外のローカル企業との取引はまだ少ないのが現状です。さまざまな海外企業との連携により、北米や中国などのローカル企業とのビジネスを広げていきたいと考えています。3つ目は「コア事業の強化」。

これはいままでMORESCOを支えてきた利益を生み出す仕組みを再構築し、競争力を高めていくということです。特に千葉工場、赤穂工場それぞれの生産プロセスをもう一度見直し、効率を高めてさらに利益を出せる体制づくりを進めていきます。また災害などへの備えについても優先的に取り組まなければと考えています。4つ目は「品質の向上とコスト低減」。両工場ではまだ人手に頼っている工程も多ありますが、さらに自動化を推進する予定です。また工場側から積極的に提案が出てくれば改善のスピードが加速する考え、工場がより主体的な立場で事業を進められる体制づくりにも取り組んでいます。5つ目は「コンプライアンスやリスクの管理」。いまの時代は、社会から信頼される企業でなければ成長することができません。私たちは株主の皆様からも社会からも信頼していただける体制づくりを、重要事項と考えて進めています。このほか特に注力していきたいポイントとしては、やはり海外の展開についてです。現地のニーズに合った製品を供給できるように海外の製品開発部門を一層強化し、きめ細かいご提案が行える体制を築いていきます。また1年後のインド工場進出は、当社の今後の事業を大きく左右するテーマ。黒字化できている日系企業が1割程度という難しい市場ですが、最善の舵取りを行って次世代の基盤を築いていきます。

このような取り組みを、全社一丸となって進めていくことにより、私たちは皆様からより期待していただける次のMORESCOを実現していくことを目指します。

担当役員メッセージ

管理体制 について



「コンプライアンス」「リスク管理」の充実と 働き方改革への主体的取組みも。

取締役 専務執行役員 CFO 竹内 隆



MORESCOが社会からさらに信頼を獲得していくためには、管理体制のさらなる充実が不可欠と考えています。その大きなテーマは、「コンプライアンス」と「リスク管理」です。公正な活動を通して組織の健全性を高め、社会的信用を高めることは、今後ますます重要に。コンプライアンスについては、私たちの日々の事業活動が、法律や内規などの基本的なルールに従って行われているかどうかについて、日常的にチェックして見直す体制を設けています。リスク管理については、工場の操業に関するリスク、原料調達に関するリスク、市場環境変動のリスクを主なリスクと捉え、万一の際にこれらのリスクをヘッジする方策を用意しています。また、このような取り組みの延長として、従業員

一人ひとりの業務遂行上の課題を解決していく「働き方改革」にも積極的に取り組んでいきます。働き方改革と一口に言っても、いろいろなテーマが挙げられると思いますが、私たちは生産性の向上が最も重要だと考えています。これから我が国の労働人口が減る中で、一人ひとりが適切な労働時間で業務を達成し、きちんと利益を確保していくには、業務の生産性をさらに高めていくしかありません。また、管理職の働きがいをもどのように担保していくかという問題や人間にとって辛い仕事をいかにAIやロボットに置き換えていくかという問題にも取り組みます。このような活動により、MORESCOの企業体質をさらに強化していきたいと思っています。

MORESCO 年間トピックス

3月 福祉車両贈呈

社会貢献活動の一環として本社・研究センターのある神戸市、赤穂工場のある赤穂市、千葉工場のある市原市に福祉車両を寄贈。今回で5回目となり、今後も継続的に地域貢献に取り組みます。



3月 働き方改革を推進

MORESCO流働き方改革をスタートさせました。労働生産性を高め、そこから生まれた利益を社員の給与や賞与などへも還元し、休暇を取りやすくする、残業を減らす仕組みを実現していきます。



担当役員メッセージ

研究開発 について



メディカル材料プロジェクトなど、 4つの軸で、数年後に新事業を創出！

取締役 上席執行役員 CTO

合成潤滑油事業部長 兼 研究開発部長 坂根 康夫



新事業の創出を目指し、今年5月から新たに研究開発部を組織して4つのプロジェクトを推進しています。1つ目は「コート剤プロジェクト」。これは表面のエネルギーを変えることで、撥水・撥油などの機能を付与するコーティング剤の開発を目指すものです。2つ目は「粉体離型剤プロジェクト」。当社がこれまで扱ってきた離型剤は液体でしたが、これを粉体にすることでより欠陥が少ない構造物の実現が期待できます。私たちはこの材料で次世代自動車の構造部品の軽量化などに貢献することを狙っています。3つ目は「バッテリープロジェクト」。現在主流となっているリチウムイオンバッテリーの次の世代のバッテリー開発を狙い、産学連携によって従来より安全でキャパシティの

大きな電池を創ろうとしています。そして4つ目が「メディカル材料プロジェクト」です。私たちの研究所が位置するポートアイランドは、「神戸医療産業都市」として医療系の企業や団体が集まっていることもあり、MORESCOの技術を医療分野へ活かしたいと考え、研究を進めています。1つの大きなテーマは創薬。現在は大学の研究室と連携し、ある疾病に効果的な化合物を実現しようとしており、3年～5年後には、この材料を製薬会社に提案できればと考えています。私たちはこの4つの大きな柱を中心に次のMORESCOのビジネスを描いていきます。もちろんこのほかにも、さらに次のテーマを探る取り組みも行っていますのでご期待ください。

5月 4事業部が合同で展示会に出展

5月に「ケミカル マテリアル Japan 2018」がパシフィック横浜にて開催され、当社からは合成潤滑油事業部、素材事業部、ホットメルト事業部、デバイス材料事業部の4事業部が合同で出展しました。



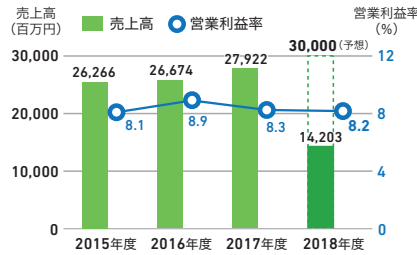
8月 お子様見学会を開催

従業員の家族を対象とするお子様見学会を赤穂工場にて開催。お子様にお父さん、お母さんが働いている姿や仕事を知ってもらうことを目的に、会社説明や工場見学、工作などを実施しました。

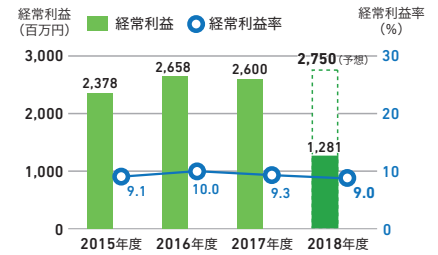


当第2四半期連結累計期間の売上高は14,203百万円(前年同期比4.8%増)となり、経常利益は1,281百万円(前年同期比9.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は788百万円(前年同期比15.8%増)となりました。

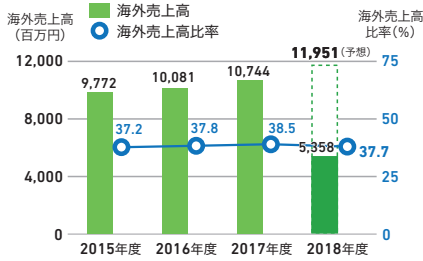
売上高と営業利益率



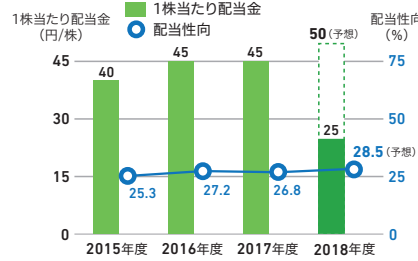
経常利益と経常利益率



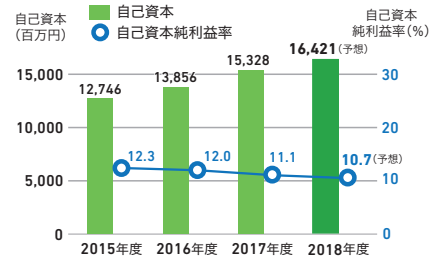
海外売上高と海外売上高比率



1株当たり配当金と配当性向



自己資本と自己資本純利益率(ROE)

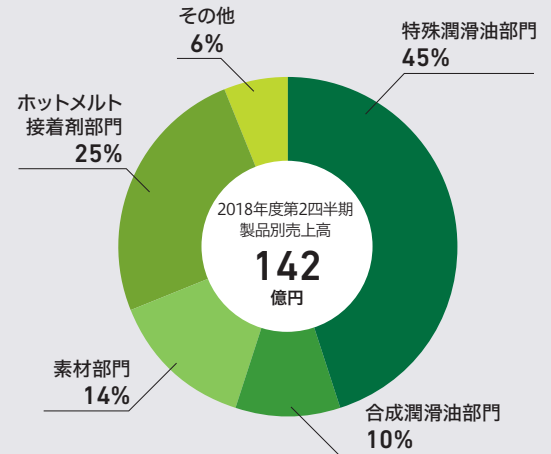


セグメント情報



活気づく自動車生産を背景に、主力事業の販売が好調。

自動車生産が世界的に好調に推移しているため、これを受けて当社の売上の中軸である特殊潤滑油部門が増収となりました。次いで影響力の大きいホットメルト接着剤部門も粘着、自動車用途において販売が好調。全体として前年同期を上回る売上高を達成しました。

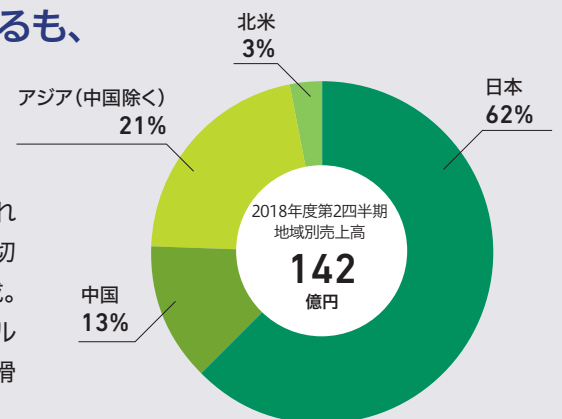


特殊潤滑油	合成潤滑油	素材	ホットメルト接着剤
主力のダイカスト用油剤が顧客の好調な生産状況と新製品によって伸び、全体売上高は前年同期を上回りました。	高温用潤滑油が好調に推移した一方、ハードディスク表面潤滑剤の出荷が減少し、全体売上高は前年同期並みに。	流動パラフィンの売上が好調に推移。スルホネートも国内外の旺盛な需要に支えられ、売上高は前年同期以上に。	衛生材用途が顧客の販売減の影響を大きく受けたものの、粘着、自動車用途が好調で前年同期を上回る売上高に。



インドネシアでルピア安の影響を受けるも、好調な日本、中国が全体を牽引。

日本経済の緩やかな回復基調が継続している中、日本では新製品の拡販に力を入れた結果、売上を伸ばしましたが、原油価格上昇が収益を圧迫する結果に。中国では切削油剤が新規拡販で増収になったことなどにより、前年同期を上回る売上高を達成。東南アジアでは好調な自動車生産に支えられ販売は好調でしたが、インドネシアルピア相場下落などにより売上高は前年同期を下回る実績に。北米では熱間鍛造潤滑剤が顧客の在庫調整の影響を受け、売上高が前年同期を下回る結果となりました。



会社概要・株主情報 (平成30年8月31日現在)

■会社概要

商号 株式会社MORESCO
設立 1958年10月27日
資本金 2,118,294,000円
従業員数 375名

●本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町
5丁目5-3
電話078-303-9010(代表)
支店 東京支店/大阪支店
営業所 名古屋営業所
工場 千葉工場/赤穂工場

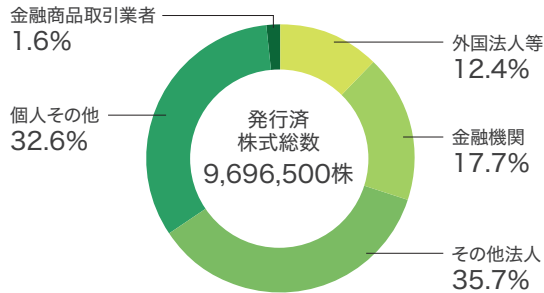
■役員構成

代表取締役会長 CEO 赤田 民生
代表取締役社長 社長執行役員 COO 両角 元寿
取締役 専務執行役員 CFO 竹内 隆
取締役 常務執行役員 経営戦略担当 宮川 弘和
取締役 上席執行役員 海外担当 瀬脇 信寛
取締役 上席執行役員 CTO 坂根 康夫
取締役 浅野 応孝
取締役 リ・ジュ・ジュティ・リン
取締役 出口 侑宏
常勤監査役 作田 真一
監査役 富野 武
監査役 小沢 史比古
監査役 長谷川 克博

■株式の状況

発行可能株式総数……20,000,000株
発行済株式総数……9,696,500株
株主数……10,257名

●株式所有者別分布状況



●大株主

株主名	持株数	株主比率
松村石油(株)	1,067,000	11.0%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCR00	671,700	6.9%
コスモ石油ルブリカンツ(株)	503,000	5.2%
日本曹達(株)	365,000	3.8%
MORESCO従業員持株会	352,520	3.6%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	343,500	3.5%
三菱商事(株)	327,000	3.4%
双日(株)	327,000	3.4%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	279,800	2.9%
(株)みずほ銀行	250,000	2.6%
(株)三菱UFJ銀行	250,000	2.6%

持株比率は自己株式(697株)を控除して計算しております。

株主メモ

■事業年度

3月1日～翌年2月末日

■期末配当金受領株主確定日

2月末日

■中間配当金受領株主確定日

(中間配当を行う場合)

8月31日

■定時株主総会

毎年5月

■株主名簿管理人および

特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

〒541-8502 大阪市中央区伏見町

三丁目6番3号

TEL:0120-094-777(通話料無料)

■上場証券取引所

東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行う

公告記載URL

<http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。